

学校法人永守学園 第2期中期経営計画

1. 「建学の精神」に基づく「目指すべき方向」及び「行動の指針」を具体化するため、第2期中期経営計画（2025年度～2029年度の5年間）を策定する。
2. 中期経営計画は、年度毎の事業計画及び事業報告において、その進捗状況を確認する。
3. 中期経営計画で掲げた目標達成に向けて、改善の状況を明示的、数量的に示すことが必要かつ適切である項目については、事業計画において KPI を設定する。なお、事業の実施状況の評価に当たっては、当該KPI の推移に加え、関連する情報を含めて多角的な評価を行う。

I 京都先端科学大学

○ 建学の精神

- ・ 未来につながる課題を自ら設定し、それを解決することができる先端人材を輩出する。
- ・ これからの社会が目指すべき姿を構想し、その実現に向けた諸課題の解決に繋がる先端学術研究を実践する。
- ・ 人材輩出・研究の実践を通じ、現在と未来の世界に先頭を切って貢献していく。

○ 目指すべき方向

社会で活躍するための基盤となるリベラルアーツ（基礎知識と思索力）と専門知（インテリジェンス）を十分に理解し、実社会でそれらを活用できる人材を育成する。特に、変化の激しい現場（ストリート）において、知識と判断力を駆使しながら、粘り強く活動し続けることができる「ストリートスマートなグローバルプレイヤー」の育成を目指す。

○ 行動の指針

大学で培った リベラルアーツと専門知をもとに、現場で遭遇する事象を適切に解釈する力を養う。さらに、現場とリベラルアーツ・専門知の間を自由に行き来できる能力を学生が修得できるようにする。

○ 第2期中期経営計画における主要項目

1. 教育の充実

(1) 教育組織の編成

生成 AI やDX の進展など社会の変化を見据え、既存の学問領域にとらわれない学際融合による柔軟な教育体制の整備や組織再編を進める。

(2) 基礎知識と思考力の強化

全学共通して、汎用的能力の中核的な力となる、未来展望力・教養、学術的な基礎力・技能、語学力・異文化理解、およびコミュニケーション力・リーダーシップ・協調性を修得する新たな科目を開設し、基礎知識と思考力の強化を図る。

(3) 高度な専門教育

大学院教育を充実し、より高度な教育・研究のための環境を整備する。

グローバル社会で必要な専門知識を備えた人材の育成に向け、実践的な知識や技能を身に着ける機会の拡大を進める。

(4) 課題発見・課題解決能力の醸成

主体的・能動的な学修方法である PBL やアクティブ・ラーニングの比率を高め、課外のプロジェクト活動なども含め、課題発見・解決力の向上を図る。

(5) 学修成果の把握・可視化

IR (Institutional Research) 活動により学習実態や本学の教育活動の現況を定量的に把握、分析する仕組みの整備を進める。

(6) 教育のグローバル化

世界に開かれた大学として、海外の多様な国々から多くの留学生を集め、英語を共通語としてグローバルな環境の中で切磋琢磨しつつ学修を行うとともに、本学からも多くの海外留学生を輩出できる環境を整備する。

協定校を含めた海外大学との実質的なモビリティを促進する。

(7) 初等中等教育学校との連携

建学の精神に基づく人材育成をより有効に達成するため、大学と附属中学校・高等学校との教育面の一貫性を重視した学びを進める制度を整備するとともに、附属校だけでなく教育方針を共にする高等学校との連携を拡大する。

地域の小学校、中学校等に対して、大学の有する専門性の高い人材や施設設備を提供し、社会貢献につながる連携を進める。

2. 学生支援

(1) 奨学金制度の充実

学ぶ意欲と力のある学生を経済的に支援して、本学での修学の機会を提供するため、建学の理念に基づく奨学金を創設し、その対象者を拡充する。

また、広く全国から優秀な学生を集めるため、キャンパスが所在する京都市、亀岡市近郊以外から本学に入学する学生を支援する奨学金制度をはじめ学生の状況に応じた本学独自の奨学金制度を提供していく。

(2) 学生生活環境の充実

課外活動等を活性化し、充実した学生生活を送ることができる環境を整え、社会人として必要な行動規範を備えた幅のある人材を育てる。

強化指定クラブの一層の強化を図るため指導体制の充実を図るとともにグラウンドの改善及びトレーニング施設の整備など活動環境の改善を進める。

支援が必要となった学生に対し適切な対応が行えるよう、相談対応や関係機関との連携など体制の整備を進める。

(3) 就職支援

全ての学生が望む仕事に就けるよう、教職員が協働しつつキャリア支援体制の強化を図る。入学直後から正課科目や課外活動において、グローバルに活動でき、専門知識を実践する力を身につけられるように育成し、就業に向けた意識付けを行う。

卒業生のフォローアップをきめ細かく行い、産業界等の学外からの意見を聞き、就職支援体制の改善を進める。

より多くの学生の職業意識の醸成を高めるため、国内外のインターンシップ先の拡大を図る。

3. 学術研究振興

(1) 学術研究の振興及び推進

大学院の研究科体制を強化し進学者の拡大を進めつつ、研究活動の更なる発展を図る。総合大学としての多様な研究領域を活用し、実社会の課題に効果的にアプローチできる学際融合による新たな研究体制を整備する。

研究者が研究に専念できる時間を十分に確保できるよう支援体制の強化を進め、研究活動の活性化を図る。

(2) 産官学民連携

産業界との研究連携を図る体制を構築し、外部研究資金の獲得を積極的に支援する環境を整える。

知財や特許の有効な運用や管理体制を構築する。

4. 社会貢献活動

(1) 地域・社会連携

本学の有する多様な研究資源を活用し、地域・社会の課題解決に貢献するため、地域自治体等の連携事業を促進する。

本学の卓越した教員の知見を広く一般に発信する公開セミナー等の事業を進める。

(2) リスキリング

地域の自治体や産業界と連携して整備を行った産学連携基盤施設等を活用し、社会人に向けたリカレント教育事業の充実を図る。

グローバル社会に求められる高度な経営戦略等の修得に応じるため、国際基準の授業を実施する体制を整備し、常に最先端の履修プログラムを展開する経営学研究科経営管理専攻（ビジネススクール）の充実を図る。

5. 大学運営及び経営

(1) 大学の事業運営

大学全体の事業についての確に進捗管理しつつ推進を行い、定期的に自己点検・評価を実施し運営の改善を図っていく。

(2) 強い学習意欲のある入学志願者の獲得

本大学の理念に共感し、熱意のある学生を集めるため、志願者の増加を図るための戦略を立て、近畿近郊だけでなく全国から求める人材を確保する活動を強化する。

グローバル化を見据え、全世界から志の高い留学生を獲得する。

理工分野におけるジェンダーアンバランスを改善する。

(3) 戦略的広報

入試広報を強化するための体制を整備し、様々な媒体を介して、近畿地区近郊のみならず全国に対し幅広く大学の情報の発信を拡大していく。

本学の先進的な取り組みを有効に社会に広げるため、強く引き付ける内容にホームページの全面リニューアルを行う。

(4) 組織整備

教員・職員、および経営陣が、本学が目指す方向性を認識し、それへの貢献実績を正當に評価し、処遇に反映する仕組みを構築する。

教員が、本学で教育・研究活動に専念し、本学が求める成果を上げることができるよう、環境を整備していく。

(5) 施設整備 <新規重点>

学生、教職員のグローバル化の進行に対応し、国際宿舍の確保、安全で機能的なスポーツ施設の充実、レストランの新設・改修等食事環境の質の改善など京都太秦キャンパス、京都亀岡キャンパスの刷新を図る「新キャンパス計画2025」を着実に実施する。

老朽機器の更新や電力の見える化等により、一層の節電・省エネルギー対策を推進する。

(6) 安全管理

安全・安心なキャンパスに向け、施設の点検・保全を確実に実施し、それを踏まえ計画的に維持管理整備を実行する。

リスク管理規程を制定し、学生・教員・職員の安全・安心を担保する体制を整える。

Ⅱ 附属中学校・高等学校

1. ミッション

建学の精神である「世界のどの舞台に立っても堂々と自分の意志で行動する人間の育成」を目標とし、不易の教育を礎とし、時流に沿った教育に鋭敏に取り組むことを通して、2050年の世界をデザインできる、すなわち地図無き世界で自らがその地図を作り出せるような力を持った「京都発世界人財」を育成する。

2. 教育

9つの学校方針（生徒募集の成功、「品位品格の育成」、「学力の向上」、「国際理解教育の推進」、「中高大連携教育の推進」、「進路実現」、「部活動の奨励」、「保護者との連携」、「タイムリーな取り組みと実践」）の下、不易と時流に沿った教育活動を実践する。

中学校2コース（先端グローバル、グローバルナビゲーター）、高校4コース（国際、特進アドバンス、特進ベーシック、進学）のカリキュラムの特徴を生かし、多様な生徒のニーズに応える教育を実践する。

生徒のニーズに応える教育実践の柱は、「グローバル教育」、「探究学習」、「STEAM 教育」に置き、「主体的・対話的で深い学び」を実現する。

先端グローバルコースを軸に据えた中高大連携による教育を創造し、永守学園独自の中高大一貫コースの教育による「京都発世界人財」の育成と実現に努める。

生徒1人1人の適性を見極めるテラーメイド型の支援システムを構築する。

3. 社会貢献

地域の課題等を探究学習等のテーマとして取り組むことで、生徒の能力や意欲を引き出すとともに、地域社会への貢献につなげる。

ボランティア活動は、社会とのつながりを体験できる貴重な機会と捉え、生徒の課外活動での取り組みや、ボランティア情報の提供等を通じた支援を行う。

地域や団体等との協働活動を積極的に模索し、地域社会にとって「頼りにされる」学校づくりに取り組む。

4. 運営

(1) 生徒

少子化進行下においても適正な定員数を確保するため、学校方針に沿った魅力ある本校教育の発信に努め、戦略的に募集活動を進る。

生徒及び保護者のニーズ等を情報収集、調査、分析し、効果的なオープンキャンパス、学校説明会の開催、学外イベント等への効果的な参加につなげる。

入試制度について、他校の動向等も調査し、本校で学びたい意欲のある人物を選抜できる制度の設計と人格をより重視した生徒募集の実施に努める。

留学生や帰国子女の受け入れを促進するための入試制度の設計し、学内の多様性や国際化を進めることでの教育効果と本校の独自性の発揮につなげる。

(2) インフラ

生徒 1 人 1 台の端末を実現させ、各教室のプロジェクター整備等、校内の ICT 環境の向上とともに、高速 Wi-Fi ネットワーク網を整備し、DX 教育の充実を図る。

学校施設の充実は、生徒募集に直結する学校の魅力であり、南グラウンドの人工芝化を実現させ、北グラウンドと併せた本校体育教育環境の安全、充実化を図る。また、体育館フロアについての改修改善にも努める。

全校舎のエアコン改修、LED化を進め、環境改善とともに光熱費の削減にも取り組む。

ICT 環境の向上は、教職員の労働の効率化にもつなげ、ペーパーレス化や生成 AI の業務への活用等を積極的に推進する。

(3) 組織（人事）

教育目標の達成には、人的資産の充実は必要不可欠です。時代の変化に柔軟に対応し、教職員の多様化に対応して各人の専門性やスキルを伸長し、その発揮を評価する人事制度を創設し、能力と意欲のある教職員の確保に努める。

計画的な人材採用と人材の育成、とりわけ次世代の管理職、リーダー層を計画的に育成する研修体系の整備に努める。

教職員の職務、職責を明確化し、役割の再配分等を検討することにより教員・職員の協働を推し進め、学校業務の合理化と再編、改革を促進し、業務の効率化を図る。

(4) 広報

学校運営を維持、安定させるために必要な生徒数を確保するため、常にマーケティング戦略の見直しを実施し、ターゲティング（保護者層、地域）、浸透認知させる項目（強み）とその手法をセットにした戦略の策定を行う。

ホームページの充実だけでなく、SNS の活用、メディアや進学雑誌、塾広報誌等への記事掲載の増加を図る。

中高のみならず、大学と幼稚園を含めた永守学園全体のブランドイメージの向上につながる戦略的な広報を推進する。

保護者会（京紫会）、同窓会との連携を強化し、口コミの発信拠点としても活動していただけるよう、側面からの組織運営支援を行う。

Ⅲ 幼稚園・保育園

1. ミッション

将来、自分の力で自分の道を切り開いていく力（生きる力）の基礎をつくる。

2. 教育

子どもたち自身が遊びや生活を創り出していく体験・遊びの中で、自分で考え試しそして工夫したりなど、試行錯誤を繰り返すことで充実感を味わえる体験を作り出す。

友達同士のかかわりの中で思いやりの心、頑張る気持ち折り合いをつけたり乗り越える力を育てる。

3. 運営

(1) 園児・幼児

地域密着、浸透型の運営を通じた高い評価を梃に、毎年 2 歳児 20 名、3 歳児 30 名の入園者確保、在籍者数 200 名の体制維持に向けた活動を継続する。

(2) インフラ

自然に恵まれた広い園庭の提供を通じ、以下の環境を引続き提供する。

① 野菜や花を育てたり木の実や草花などの自然物を遊びに取り入れることができる。

② 身近な小動物との触れ合いを通して命の大切さを感じることができる。

開放的な園舎と自由な雰囲気を持し、多種多様な遊びや体験の場を提供し続ける。

Ⅳ 法人

1. ガバナンス

各学校における自主自立的な活動の促進と、従来に増して社会性（公共性）を重んじた自律的な運営体制の構築を進めていく。

より強固な経営基盤の構築、時代の変化に柔軟に対応できる体制作りが行えるよう、指針となる『学校法人永守学園ガバナンスコード』を既に制定しておりますが、法令諸規則への対応、毎年度の自己評価を通じて改善を図り、学園全体のガバナンスを引続き強化していく。

2. コンプライアンス

当法人の業務に従事する全ての関係者は、

- ① 教育機関としての公共的な使命
- ② 社会から求められる役割・期待
- ③ 各種法令規則等の遵守

を踏まえた上で、本中計期間においても日々高い倫理観を持って業務に取り組む。なお、倫理面にかかわる判断の羅針盤として、「コンプライアンス推進規定」を制定している。

外部環境・世相を反映する形で、近年は当学園内においても様々な背景や考え方を持つ関係者が増加している。当学園では、ダイバーシティ並びにインクルージョンについてもより一層の浸透を図り、更なる発展に繋げていく。

3. 財務力の強化

収支均衡を目指しつつ、大学改革を進める中期計画の実現のための積極投資を支えていく。

。 予算の執行管理を適切に行い、コストコントロール機能を高めていく。

本学経営が迅速に意思決定できるように分析力を強化していく。

自主財源の強化のために戦略的な寄付金募集を実施する他、学内各部署の外部資金獲得の取組を支援していく。